

俳句 大津俳句会

釣忍奥に見へるは父の顔

井上 昭子

父祖の田は安住の地や田草引く

岩崎由美子

荒畑あらはたに咲きほこつており百合の花

大塚喜久子

夢語る少年の目の涼しかり

岡崎 浩子

雨上あめがる夕焼ゆやけの朱あかの神々し

佐賀 久子

すいと来て水に腹打つ夏つばめ

佐澤 俊子

俳句 つのはな句会

九条を揺らす風音半夏生

矢嶋 道子

水の音清すがし故郷に郭公鳴く

梅木トキエ

青嵐二両電車は二人きり

塚本 洋子

武蔵忌のふと背後から来る殺気

榮田しのぶ

えんえんと渋滞 からすうりの花

村田 健二

ひと皿の西瓜とに解ける力瘤ちからこぶ

志賀 孝子

向日葵群れて水底をイマジジン

田上 公代

我が老いの十指に虚実からむ夏

木庭 杏子

速書きの文字にからまる熱帯夜

上杉 波

短歌 大津短歌会・野づかさ

厄入りに賜びし時計は四十年時告げてきし
地震も耐えて

坂本 杲子

たよたよと水無川かの砂地を歩く猫ありつけ
たるや昨夜の飯に

鞍 岳志

二日かけ煮つめあげたる伽羅路に喜びくれ
ぬ食細き夫

山本 泰子

南天の白き花咲く角おもて田植えまじかの
水面が光る

吉田 良子

早朝の湯けむり広がる露天風呂肩のほとり
に笹の葉ひとつ

荒木 麗子

水はねる手水鉢にいるすずめ白き障子に影
のうつれる

田中 玲子

幼い日ブランコ掛けし椎の木は切株となり
参道に残る

豊岡ミツル

亡き妻の笑顔浮かびぬカーネーション次々
咲きて梅雨に入りゆく

小平 善行

合歡の花見れば切なし紡ぎ来て髪など洗い
し母のありしを

吉永 恵子